

9 府民が親しみ、府民が参加する公共事業の創造

建設交通部監理課

【概要】

建設交通部（旧：土木建築部）では、道路や河川、公園等の社会基盤整備に関する府民の理解を深めるとともに、さらなる行政運営の透明性向上を目指して、計画・工事・維持管理の各段階において、ワークショップや工事見学会、清掃活動など府民参画・協働の取組を進めています。

運営目標において府民との協働により公共事業の推進、府民への情報公開・積極的な広報展開』をテーマに、『府民が親しみ参画する公共事業(工事見学、環境学習、美化活動等)の推進：3万人参加目標』を掲げています。（H20）

H19年度 目標2万人に対し、取組数465回、参加人数31,745人

H20年度 11月末迄で、取組数360回、参加人数32,825人

こうした取り組みの企画、準備及び当日の対応等は、関係職員の自由な発案や地域住民との連携など手づくりによるものが大半です。

背景

きっかけは、職員の「なぜ」と「気づき」

建設交通部では、道路や河川の整備や維持管理、舞鶴港の整備、洪水、土砂災害対策、府営住宅の整備や管理、木造住宅の耐震対策、防災情報の提供、景観や「まちづくり」に関すること、違法行為対策など 多岐にわたる業務を行っています。

こうした仕事を現地の事務所と本庁が一体となって、地域のため府民のためがんばっています。

それなのに、「なぜ」

「無駄な公共事業」って言われるのだろう。

反対や苦情が絶えないのだろう。

発信する情報は府民にうまく伝わらないのだろう。

「気づき」

私たちの伝えたい情報が府民にとって分かり易いものになっていないのかも。

情報の伝え方、発信の仕方も、一方的、お役所的になっているのかも。

リーダーからの合い言葉は、『応援団を増やそう』

仕事を進める上での様々な場面において、ワークショップや出前語り、工事見学会、学習会、清掃活動などの取組を積極的に打ち出し、「もっと知ってもらおう」、「参画してもらおう」、「一緒に汗を流そう」とリーダー（部長）から呼びかけがありました。

目的

建設交通部の仕事（公共事業）に対する府民の理解を深めていただくとともにさらなる行政運営の透明性向上を図ることにより、より良い府民価値・府民満足を提供する。

取組

工事見学会



「京都縦貫自動車道宮津野田川道路」の工事見学会は来場者が2000名を超えました。バンザイ！
京都府道路公社



八幡市の御幸橋の工事現場には、近くの小学生が見学に来てくれました。見学の後には、土木事務所に作文を届けてくれました。

山城北土木事務所



施設見学会・事務所訪問・ワークショップ



流域下水道洛南浄化センターの施設公開には毎年多くの見学者が来場していただいています。職員は説明に大忙しです。

流域下水道事務所



地元小学校の児童が、学校付近の歩道工事が完成したことを対するお礼と社会見学をかねて土木事務所を訪問してくれました。児童から、工事に対するお礼の寄せ書きを頂きました。職員もにっこり。

南丹土木事務所

舞鶴市の福井小学校4年生の児童が港湾施設の見学に来てくれました。巡視船みずなぎによる港内見学や大型クレーンへの搭乗等により港の役割を学んでもらいました。安全対策に気がつけました。

港湾事務所



ワークショップ



川づくりや景観づくりのワークショップの様子です。自分たちの地域を良くしようと皆さん熱心に話し合っていました。地域に愛されるまちづくりを目指します。

丹後土木事務所 他



水辺の学習会

舞鶴市の与保呂川では、日頃親しんでいる地元小学校の生徒が総合学習の一貫として、水生生物の調査及び水質測定を実施し川環境について学習しました。

中丹東土木事務所



出前語らい

井手町の多賀バイパスでは、地元の小学校に出前語らいに伺いました。子ども達が新しくできる橋の名前を考えてくれました。その名は「であいばし」！ 山城北土木事務所



地域のイベント



福知山市の雲原地域では、流域の住民が集い、歴史的遺産である「雲原砂防」を活かした地域づくりに取り組まれています。職員もスタッフとして大活躍です。大変だったけど達成感も。

中丹西土木事務所



取り組みの企画、準備及び当日の対応等は、関係職員の自由な発案や地域住民との連携など手づくりによるものが大半です。

これらの行事は、夜間や土・日の実施がほとんど。職員は、地域の皆さんとの準備委員会などにも参加しました。

効果

運営目標に対する成果（平成19年度）

目 標	参加者	20,000人
	参加者	31,745人、取組数465回

職員にとって「やりがい・達成感」、「満足感」を感じることができ、参加された多くの皆さんとの「会話」が生まれました。

現在

新しく誕生した「建設交通部」においても、事業・施策のプロセスにおいて、「府民にってもらい」、「府民の声を聴き」、「府民とともに」を合い言葉に、平成20年度当初に設定した運営目標の達成を目指しています。

「府民が親しみ、府民が参加する公共事業の創造」の取組については、目標参加者を30,000人と設定し、11月末で取組数360、参加者32,825人となっています。

振り返りと今後の課題

振り返り

- 情報の一方通行になっていないか？
- アリバイづくり、自己満足になっていないか？
- 府民の声やニーズが反映されているのか？
- 府民の満足、理解を得ているのか？
- 府民価値を提供できているのか？

今後に向けて

「振り返り」と「気づき」から、「知ってもらふこと」まだまだこれから拡大していきます。「声を聴かせてもらうこと」これを、より充実させていくことが、これからの課題であると考えています。

今後とも、府民とのコミュニケーションをより一層図っていくことにより、「府民と共に」を合い言葉に私たちの仕事（公共事業）を進めることにより、より高いレベルの府民価値・府民満足の提供を目指します。